

平成30年8月10日 第58号

柳川郷土研究会
会誌「水郷」付
すいきょう

瓦版

発行所 柳川郷土研究会
柳川市大和町栄1078-3
発行人 武末十治男
編集責任者 金子俊彦



火 「お天道様」

子供の頃、野良仕事から帰る農夫が、西の山に沈む夕日に向かって手を合わせて埋
拜み、再び鎌をかついで帰路につく、そ
んな光景をいつも見ていた。

それは極めて日常的なことであつたので、
どういうことかなのか特に考えたこともなく
夕日を見ると子供なりに手を合わせたものだ。
従つて祈るとか、感謝するとかいう深い意味
があつたわけではない。ただなんとなくそう
していただけのことである。

しかし幼い頃の習慣はおそろしいもので、
今でも西山に沈む夕日には合掌しないと申
し訳ない気がする。今年は何年にもない猛暑
が日本列島をおそつた。

ビールをはじめ清涼飲料水の売り上げは
鰻上りだと聞かされた。クーラーの売り上
げも去年の三倍だとかいう。

テレビにいくらかお金をかけてコマーシャル
を出してもこれ程の売り上げは望むべくもな
かるう。DVDも、ほかの家電製品もはか
ばしくなかつたが、クーラーのおかげで一
抛に売上げを倍増できましたと、勘定を取
りにきた店の跡取り息子が喜んでいた。

「親父からよく聞かされていましたが、本当
にお天道様には足を向けられません。」そう
いつて単車で帰る後姿が、なぜか子供の頃の
あの農夫の姿とだぶつてみえた。

一般的な考え方（武末十治男）

このように、自然に対しても感謝の気持を
持てる人は、もちろん人様に対しても、思い
やりのある人、やさしい人、真心の人と歓迎
される人でしょう。

そんな思いで毎日を過ごしたいものです。